

P2-33-7 化学放射線治療時のシスプラチン毎週投与法におけるマグネシウム補充療法による腎機能保護作用の検討

都立駒込病院

字野雅哉, 平田麻実, 井上知子, 喜納奈緒, 尾崎喜一, 八杉利治

【目的】近年, シスプラチン (CDDP) 投与による腎機能障害に対するマグネシウム補充の予防効果が報告されている。進行子宮頸癌に主治療として行う化学放射線治療における CDDP 毎週投与に対するマグネシウム補充療法の腎機能保護作用を明らかにするために本研究を行った。【方法】当科で 2012 年 1 月～2015 年 6 月に化学放射線療法 (CDDP 40mg/m²/週) で治療した子宮頸癌症例のうち CDDP を 3 回以上投与した症例を対象とした。治療中に尿路閉塞による腎機能低下を生じた 1 例を除く 30 例を解析した。13 例は CDDP 投与前に硫酸マグネシウム 8mEq を点滴静注し (Mg 投与群), 17 例には硫酸マグネシウムが投与されなかった (Mg 非投与群)。両群における高度腎機能低下症例数と腎機能低下による CDDP 減量症例数をカイ 2 乗検定で比較した。【成績】治療開始前に比べて治療中に eGFR が 40% 以上低下した症例は, Mg 投与群は 0 例で, Mg 非投与群は 6 例 (35.3%) であり, 統計学的な有意差を認めた (P=0.012)。腎機能低下による CDDP 減量症例は Mg 投与群は 1 例 (7.7%) で, Mg 非投与群は 4 例 (23.5%) であり, Mg 投与群の方が少ない傾向であった (P=0.127)。【結論】化学放射線治療における CDDP 毎週投与法において, マグネシウムを補充することにより, 腎機能を保護しスケジュール通りに CDDP 投与が行える可能性が増えると考えられた。

P2-33-8 トモセラピーを用いた, 進行子宮頸癌に対する CCRT の治療成績

和歌山県立医大

馬淵泰士, 八幡 環, 小林智子, 小林 彩, 谷崎優子, 城 道久, 太田菜美, 八木重孝, 南佐和子, 井篁一彦

【目的】トモセラピーは, 強度変調放射線治療法と画像誘導放射線治療法が一体となった, 高精度の放射線治療装置である。今回我々は, 子宮頸癌 CCRT における本治療法の有効性および安全性を検討した。【方法】過去 3 年間に当科において, トモセラピーにて CCRT を実施した子宮頸癌 13 例 (トモセラピー群) について, 後方視的に検討した。比較対象として, それ以前の 6 年間に従来のリニアックを用いて CCRT を行った 15 例 (リニアック群) を併せて検討した。【成績】トモセラピー群の平均年齢は 57.8 歳, 観察期間中央値は 9 か月 (3-24) であった。FIGO stage は IIB 期 3 例, IIIA 期 2 例, IIIB 期 3 例, IVA 期 1 例, IVB 期 4 例であった。組織型は, 全例が扁平上皮癌であった。初回治療終了時の治療効果は, 未評価の 1 例を除き, CR10 例 (76.9%), PR2 例 (15.4%) であった。G3 以上の急性期有害事象としては, G3 の好中球減少を 6 例 (46.2%), G3 の血小板減少を 3 例 (23.1%) に認めた。G3 以上の非血液毒性は認めなかった。リニアック群との比較では, G3/4 好中球減少および G3/4 下痢の発症頻度は, 両群間に有意差を認めなかった。G3/4 血小板減少の発症頻度はトモセラピー群が有意に多かったが, 速やかに自然回復を認めた。統計学的には有意でなかったが, G3/4 血小板減少の発症症例は, 初回治療時に傍大動脈領域照射を実施している症例が多い傾向にあった。【結論】トモセラピーを用いた CCRT は, 従来法と同様の高い奏効率を示すとともに有害事象も制御可能な, 進行子宮頸癌において有用な治療法である。

P2-33-9 子宮頸癌に対する daily low-dose cisplatin 併用同時放射線療法 (CCRT) の治療成績

順天堂大練馬病院

北川友香梨, 杉森弥生, 安東 瞳, 武内詩織, 真壁晶子, 長澤さや, 三輪綾子, 山口舞子, 松田祐子, 村瀬佳子, 松岡正造, 荻島大貴

【目的】子宮頸癌に対する同時化学放射線療法 (CCRT) における化学療法として, シスプラチンを含むレジメンが推奨されている。米国での投与法は cisplatin 40mg/m²/week 6 コースが一般的である。当院ではインフォームド・コンセントを得た上で, daily low-dose cisplatin 併用 CCRT を施行しているが, その完遂率や副作用, 治療成績などについて検討を行った。【方法】2009 年から 2014 年までに, 当院で CCRT を行った子宮頸癌 15 例 (2a 期 2 例, 2b 期 9 例, 3b 期 2 例, 4b 期 2 例) を対象とし後方視的に検討した。外照射は 50.4Gy とし, 腔内照射を併用した。cisplatin は 10mg/m²/day 5 日間を 4 週間併用した。【成績】年齢の中央値は 69 歳, 組織型は扁平上皮癌 12 例, 腺癌 3 例であった。観察期間の中央値は 21 か月。cisplatin 併用は 14 例に完遂でき, 完遂できなかった 1 例は, 精神発達遅滞で本人が治療拒否したため 170mg/m²投与したところで cisplatin のみ中止となった。平均総投与量は 206mg/m²だった。G3 以上の血液毒性は好中球減少症 1 例, 血小板減少症 1 例, 2 例に G-CSF の投与を行った。G3 以上の下痢は 2 例であった。局所効果は CR13 例 (86%), PR1 例 (6%), SD1 例 (6%) で, PR 以上の局所防癒率は 93% であった。経過観察中に局所再発, 増大 2 例, 遠隔転移 3 例認めた。【結論】daily low-dose cisplatin 併用 CCRT は完遂率が高く, 治療成績も良好で, 副作用が少ないことより, 推奨される治療方法と考えられた。